

NEXTを 語り合う ワークシート

『VIEW21』 高校版
2020年6月号特集

テーマ

生徒の実態から考える「高3支援」

予期せぬ長期の臨時休業や、部活動の大会、学校行事等の中止や延期を経験した高3生が、そうした事態を乗り越え、それぞれの希望進路を実現するためには、どのような支援が必要なのだろうか。目の前の生徒の実態を、様々な教師の目で多角的に捉えた上で、自校の生徒に必要な支援について語り合うツールとして、本ワークシートを活用いただきたい。

ワークシートの使い方

できれば、まずは各自が今号の特集(P.2～19)を読む。それから、高3学年団などで本ワークシートを複写、またはダウンロードし、「私が考える高3生の今後の課題」の欄に各自が記入した上で集まる。そこでは、それぞれの教師が把握している生徒の課題の共通点や差異について確認し、生徒の見取りを豊かなものにするとともに、課題への具体的な対応策を組織としてすり合わせる。

私が考える高3生の今後の課題〔キーとなる問いを基に整理〕

学習内容の定着度／学習意欲

生徒の実態を把握するためのキーとなる問い

- 「授業中の様子は？」 「課題の取り組み状況は？」
- 「定期考査や模擬試験から見えてきたことは？」

進路観・志望理由の深まり／志望の変化

生徒の実態を把握するためのキーとなる問い

- 「面談時の様子は？」 「志望理由は深まっているか？」
- 「進路区分（進学か就職か）や入試方式に変化は？」

をご覧ください。

集の末尾のワークシートを用いながら、校内の参加者同士での対話を通じて、自校における「教育のこれから」を実際に考えていただけます。ぜひ、校内の複数の先生方でご参加いただければと思います。

ワークショップの日時などの詳細は、本誌8月号およびベネッセ教育総合研究所のウェブサイト内のコーナー「VIEW21 express」などで後日お伝えいたします。

VIEW21 express <https://berd.benesse.jp/special/VIEW21express/>



ファシリテーター役の先生へ

本ワークシートの目的は、自校の高3生の実態を、複数の教師の視点で丁寧に把握しながら、生徒が進路実現の局面によりよい状態で臨めるような支援のあり方を考えることです。今回の特集に登場した教師の中には、「生徒は一見、この状況を冷静に受け止めているようだが、内面では不安や悩みを抱えていると思われる」と話す教師もいました。生徒一人ひとりの真の状態を把握するためには、授業や部活動の中でのちょっとした言動を見逃さず、高3学年団で共有していくことが必要です。学年団の先生方に積極的に生徒の様子を話していただく中で、生徒も教師も経験したことがない今の状況下での「生徒理解」を深め、よりよい支援につなげていただければと思います。

課題への具体的な対応策（教師同士の対話を通じて、組織的な対応策を考える）

今後、組織として実践していきたい対応策は？

個人として既に実践している対応策は？

今後、組織として実践していきたい対応策は？

個人として既に実践している対応策は？



このマークのある図版は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト (<https://berd.benesse.jp>) からダウンロードできます。「HOME → 教育情報 → 高校向け」

2020年9月、対話を通じて「教育のこれから」について考えるオンライン・ワークショップを開催

社会の不確実性が高まり、答えが1つではない問いに向き合うことが増えている今、学校においても、教師が互いの考えや思いを共有する重要性は増えています。そこで、学校での「対話」の場づくりの一助にいただくべく、4月号から、特集の末尾にワークシートを掲載しています。

本誌の次号8月号は、「教育のこれから」を特集のテーマとする予定です。そして、同テーマにおける各校の今後の課題を整理するためのオンライン・ワークショップを、9月に開催します。特集で取り上げた学校の教師などに登壇いただき、自校の取り組みの紹介と質疑応答を行った後、登壇者とVIEW21編集部ファシリテートにより、8月号特